

2.2

マクロ記録の利用

(1) マクロ記録の利用

図形を描くには、Excel シートに XY 座標を設定してグラフ機能を利用する方法もありますが、自由に図形を動かしたいときは、オートシェイプを使うほうが便利です。このためには、VBA で、オートシェイプを追加し、色属性や塗り潰し属性を指定します。

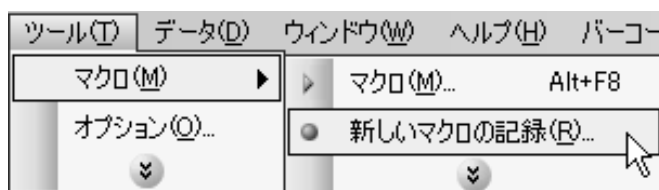
ただし、オートシェイプのためのプロパティ、メソッドは、やたら多くて覚えておくどころか、ヘルプメッセージを読みこなすのも大変です。しかし、これらのプロパティやメソッドを覚える必要はありません。Excel のマクロ記録を利用して、操作した内容をマクロとして記録し、その内容を参照して新たな処理を作成するほうが楽です。

なお、どのような理由からか分かりませんが、Microsoft Excel 2007 のマクロ機能では、Excel のオートシェイプで図形を描いてもマクロ生成されなくなりました。しかし、Excel 2010 で、この機能は復活しましたので、図形を描く操作をマクロ記録機能で記録するには、Excel 2010 にバージョンアップする必要があります。

(2) マクロ記録の操作

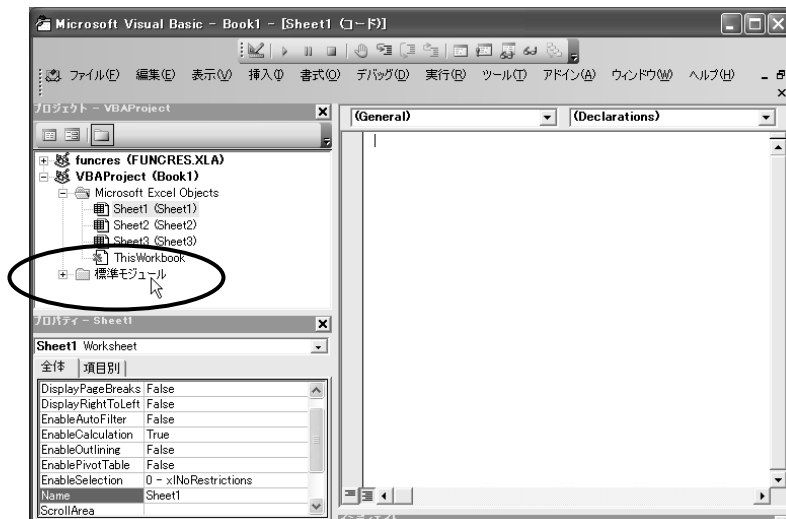
【Excel 2003 の場合】

- ① メニューから「ツール(T)」 「マクロ(M)」 「新しいマクロの記録(R)」 を選択します。

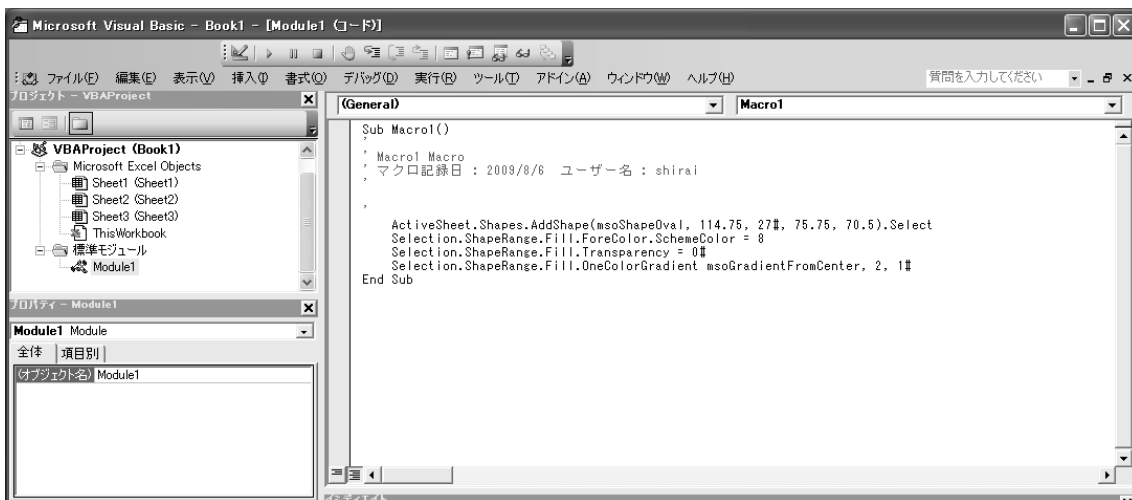


- ② 「マクロの記録」ダイアログボックスが表示されますので、記録されるマクロ名を確認し、「OK」ボタンをクリックします。

2.2 マクロ記録の利用



- ⑥ プロジェクトウィンドウ内の標準モジュールのひとつを選択します。どのモジュールにマクロが記録されているかは、その実行状態で決まりますが、初期状態から始めると「Module1」というモジュールに記録されます。以下の例は、「Module1」を選択して、記録されたマクロを表示しています。



- ⑦ 先ほど描いた図形を削除し、マクロを実行してみましょう。まず、図形をクリックして選択し、キーボードの[DEL]キーを押します。
- ⑧ メニューから「ツール(T)」から「マクロ(M)」 「マクロ(M)」を選択すると、「マクロ」ダイアログボックスが表示されます。今のところ1つしかマクロがありませんので、「Macro1」というマクロが選択されています。ここで、「実行(R)」ボタンをクリックすると、先ほど削除したはずの図形が再度描かれます。